

人へ、街へ、未来へ。



Moving for Good Days Project

もっと心動く毎日へ、一緒に。

Moving for Good Days Project

もっと心動く毎日へ、一緒に。



新しい朝、学校や職場に向かうとき。

一日の用事を終えた帰り道。

のびのびと、思いきり楽しめる休日。

なにげないときも、特別なときも、

出会いや発見、喜びをお届けしたい。

出かけたくなるワクワクも。

電車に揺られているひとときも。

そして、目的地から広がる楽しみも。

一人ひとりのお出かけを、もっと彩り豊かに、快適に。

これまでこの沿線を中心に、

たくさんの人やまちをつなげてきた私たちだからこそ、

生み出せる新たな価値があると信じて、

さまざまなチャレンジを進めていきます。

さあ、もっと心動く毎日へ、一緒に。

Fun : Moving



まちの魅力再発見メディア



移動×体験パス

出かけることがもっと楽しくなる

沿線をベースにまちをもっと楽しみ尽くすお出かけ情報などをお届け
今まで気づかなかったまちの魅力や体験との出会いを提供します

沿線の魅力が
もっと見つかる

まちの魅力がもっと見つかる情報発信メディア

思わず出かけたいまちの魅力に出会える
沿線をベースにしたお出かけしたくなる情報を提供

まちの魅力再発見メディア

駅・電車のメディア化

日常には
新たな変化を

まちのサービスがセットになった体験を
定期券感覚で楽しむサービスの提供

定期券の概念をまちでの体験にまで広げ、
移動と日々のサービスがセットになった商品を提供

新しい柔軟な定期券

移動×体験パス

非日常は
もっと楽しく

ワンストップでここにしかない体験を提供する
チケットサービス・各種イベントを展開

デジタルチケットサービスQ SKIPを中心に
東急線沿線でしかできない体験を提供

Q SKIPの進化

沿線回遊・地域密着型イベント開催

Smart : Moving



快適な乗車体験



一体的な移動サービス提供

もっと便利に、より快適なお出かけ体験を

あらゆる場面で、スムーズかつストレスの少ない移動体験を提供します

もっと快適な 駅・電車

ストレスの少ない移動体験

より使いやすいサービスを目指してスマートな改札を実現。ユーザー行動を踏まえた鉄道ダイヤ編成などにより、毎日の移動がもっと快適になる体験を提供

スマート改札（多様な決済手段・認証）

デジタル窓口（お忘れ物検索、チャットポット、他）

快適な乗車体験（ダイヤ/Q SEAT拡充、他）

マルチモーダルで シームレスに移動

現在地から目的地までの最適な移動をサポート

お客さまの状況に応じた経路検索、各種モビリティサービスとの連携、ワンストップのチケット予約・決済サービスを提供

一体的な移動サービス提供

ワンストップ予約・決済

さらにリアルタイム な情報配信

運行状況の「今」と「これから」を反映した情報提供

東急線アプリやサイネージなどを通じて、お客さまの状況に応じたリアルタイムかつ次の行動判断に資する情報をお届け

リアルタイム運行情報・経路検索

お客さまの今に応じた情報提供

Unique : Moving



お出かけプラン提案・予約



特典・TOKYU POINT



チケット共創システム

東急・沿線、そして、あなた「ならではの」移動体験サービスへ進化
体験を重ねるごとに、東急グループ・東急線沿線ならではの、そして、
個々人に最適化されたサービスを提供。お客さまや地域と共に共創・進化
していきます。

わたしだけの
お出かけを

データにもとづくパーソナライズお出かけ提案

お客さまから取得した各種情報をベースに、お客さまを
惹きつける寄り道やお出かけ体験を提案

データ連携レコメンド

お出かけプラン提案・予約

お出かけを
やさしく後押し

お出かけすればするほどに
楽しみが広がるインセンティブの提供

移動や体験頻度に応じたインセンティブなど、次のお出
かけの動機づけとなる付加価値を提供

特典・TOKYU POINT

社会貢献（寄付型等）

カスタム対応の
サービス展開

パートナーもお客さまも、
柔軟にカスタマイズできるチケット体験

地域やパートナーの皆さまが移動や体験をセットにしたチ
ケットを造成できる機能や、お客さまが好みに応じてチ
ケットをカスタマイズできる機能を提供

チケット共創システム

カスタマイズチケットサービス

これまでの歩み | 鉄道と駅からつなぐ豊かな生活

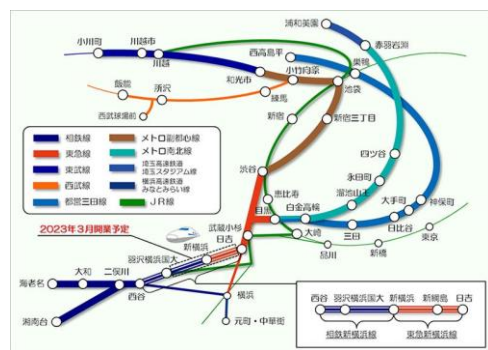
利便性の高いモビリティでまちとまちをつなぐ

東急新横浜線の開業

2023年3月18日に日吉駅～新横浜駅を結ぶ、東急新横浜線が開業。同じく開業した相鉄新横浜線とは新横浜駅でつながり、広域鉄道ネットワークの形成と機能の高度化がなされ、所要時間の短縮や乗換回数の減少など、利便性を向上するとともに、新幹線へのアクセスが向上。これにより、沿線エリア内の人流が活性化し、定住人口も増加。



広域鉄道ネットワークの実現による利便性向上
相互直通により7社局14路線を結ぶ神奈川・東京・埼玉地域に至る広域鉄道網を形成。これにより、新幹線へのアクセスも向上。



神奈川・東京・埼玉地域に至る広域鉄道網を形成

社会的効果

渋谷駅～新横浜駅間は最短25分となり、従来比で15分の短縮を実現。これにより、新幹線へのアクセスは大幅に向上。また、二俣川駅～目黒駅間も最短38分（16分短縮）となり、利便性が高まっている。時間短縮便益は7,800億円を含め、30年間で総計1兆円規模の便益が見込まれる。

※2021年度算出、相鉄・JR直通線と相鉄・東急直通線の便益
出所：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
令和3年度事業評価監視委員会

事業効果

沿線エリア内のさらなる人流活性化、定住人口増加を実現。

	2023年度	需要定着後 (2026年度以降)
輸送人員	+1,100万人	+1700万人
運賃収入	+36億円	+55億円

出所：東急株式会社 統合報告書2023



23年ぶりの新駅・新綱島駅



共同住宅（252戸）・商業施設・公益施設が一体となった新綱島駅直結の複合再開発建物「新綱島スクエア」
(2023年10月竣工済)

地域とつながる 「サステナブルな地下駅」

Green UNDER GROUND

田園都市線の地下区間5駅（池尻大橋駅・三軒茶屋駅・駒沢大学駅・桜新町駅・用賀駅）のリニューアルプロジェクト。鉄道の安全・安心向上を目的とし、「脱炭素・循環型社会」の推進や、地域とつながる駅空間と「サステナブルな地下駅」の実現を目指す。2025年3月に第1弾である駒沢大学駅リニューアル工事が竣工、その後第2弾として桜新町駅リニューアル工事に着手。



サステナブルな駅づくり

空調設備改修へのコミッションングの導入によるCO2削減、建築資材に廃材を活用した廃棄物の削減、国産材の活用による森林資源の循環への貢献などのさまざまな環境施策にも取り組む。



フェンス・仕上げ材へ茨城県産材を活用した公園口

天井材へ多摩産材を活用した東口

まちの魅力を発信する取り組み

都立駒沢オリンピック公園や周辺のまち並みから着想を得たオリジナルコンテンツの放映や、駒沢大学駅エリア在住の写真家・若木信吾による写真展など、人々がまちに思いを寄せる新たなきっかけとなる取り組みも実施。



駅の未利用空間を活かした地域交流の実験場

駒沢大学駅構内に「トライアルステージ」を、用賀駅に「GUG Lab.」を設置し、未利用スペースを活用した地域の拠点に。それぞれの地域のカルチャーや個性的な商店などの情報を発信するイベント・展示を通じ、駅と人、駅と地域をつなぐ新しい価値を創出することを目指す。

これまでの歩み | 豊かな生活を支える“まちづくり”

交通・不動産・生活サービスが一体となったまち

南町田グランベリーパーク

2019年11月にまちびらきをした「南町田グランベリーパーク」は、町田市と東急(株)が連携・協働し、都市基盤、都市公園、商業施設、都市型住宅などを一体的に再整備・再構築し「新しい暮らしの拠点」を創り出していくプロジェクトとして始動。「まちのぜんぶが“パーク”となる」をコンセプトに、駅と商業施設、公園がシームレスにつながり、自然とにぎわいが融合したまちを目指す。その結果、周辺人口や乗降人員も増え、まちのにぎわいが生まれている。



▼ まちづくりの効果	2017年4月	2025年4月	増減
周辺人口 (人/半径1km)	18,907	22,227	+17.6%
町田市全体	429,114	430,153	+0.2%
周辺地価	2017年1月を100とした場合	128	+28.0%
町田市全体	2017年1月を100とした場合	106.9	+6.9%
	2016年度	2024年度	増減
年間乗降人員 (千人)	12,522	17,143	+36.9%



南町田グランベリーパーク駅のリニューアルや駅の南北をつなぐ自由通路の新設、急行停車駅となったことで、訪れる人にも住む人にも快適な移動を提供。



グランベリーパーク
約220の店舗が入っており、グルメ、アウトレット、映画館などのほかメディカルモールなど暮らしに必要な医療などのインフラも揃う。

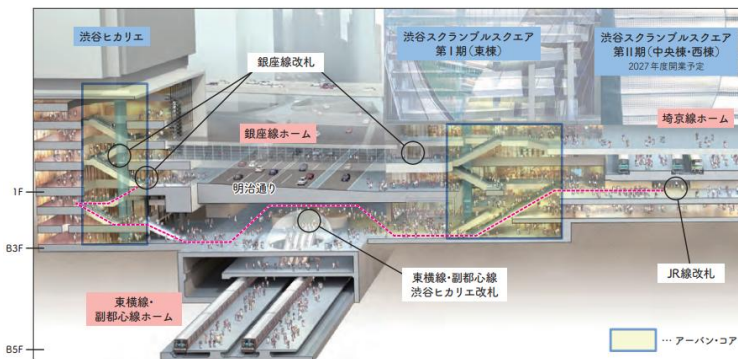


**ドレスセタワー南町田
グランベリーパーク**
脱炭素社会への貢献や、安全・安心で一人ひとりのライフスタイルに対応した住まいの提供を実現。

人と文化がスムーズに流動するまち

渋谷まちづくり戦略“Greater SHIBUYA 2.0”

渋谷駅周辺の再開発において、ホームの移設や乗換導線の改良、アーバン・コアと歩行者デッキの整備を進めることで、駅と街をなめらかにつなぎ、人と文化がスムーズに流動する都市空間を創出。来街者が快適に回遊できる導線設計とともに、街全体の魅力を高める仕掛けを各所に施し、文化と人が交差する新たな渋谷のまちづくりを推進している。



渋谷駅周辺の整備

スリパチ状の地形である渋谷の縦移動を便利にするため、エレベーターやエスカレーターにより多層な都市基盤を上下に結ぶ縦軸の移動空間「アーバン・コア」と、分断された街をつなぐ「歩行者デッキ」を整備し、回遊性の向上を図る。



渋谷ヒカリエのアーバン・コア



渋谷ストリーム246号横断デッキ



渋谷スクランブルスクエア



渋谷ファッションウィーク

まち全体の魅力を高める取り組み

渋谷で楽しく快適に過ごし、「働く・遊ぶ・暮らす」が融合した「自分らしい生き方」や「人・自然・社会が調和した豊かさ」が実感できる「渋谷型都市ライフ」の実現をきっかけ、渋谷スクランブルスクエアをはじめとする複合施設の整備や、官民連携のエリアマネジメント活動、渋谷の新たな魅力をつくる街イベントなど、まちの魅力の向上と、人々のライフスタイルを支える様々な取り組みを実施。

人へ、街へ、未来へ。



東急電鉄